

景気動向調査結果報告書

【やお景況レポート】

2020年 第I・四半期(1～3月) VOL. 96

八尾商工会議所
八 尾 市

目 次

【調査実施の概要】	1
【調査結果の総括】	2
1. 製造業の景気動向	5
2. 非製造業の景気動向	9
3. 新型コロナウイルス感染症による経営への影響について	1 2
4. 新型コロナウイルス感染症の影響を含めた自由回答	1 4

【 調 査 実 施 の 概 要 】

本調査は、地域経済の総合的な動向を把握し、産業振興のための基礎資料の作成及び経営者への情報提供を目的として実施している。1996年7月に第1回目の景気動向調査を実施し、今回（2020年4月実施）の調査で96回目となる。

調査対象事業所は、八尾市内に立地する従業員5人以上の事業所を母集団として、その中から、製造業650社、非製造業（建設業、卸売業、小売業、サービス業）350社の合計1,000社を無作為に抽出した。

調査方法は、調査票を郵送し、回収をFAXで行った。

今回の回収率は下表に示すとおり、製造業が17.4%、非製造業が15.4%、全体では16.7%である（表1～2参照）。

（注）2013年4～6月期調査より調査方法の変更を行った。2014年1～3月期調査より調査対象事業所数を削減した（従来1,300社→1,000社）。

表1.業種別回答状況

業種	発送数	回答数	回収率
金属製品	162	31	19.1%
機械器具	196	36	18.4%
その他の製造業	292	46	15.8%
製造業計	650	113	17.4%
建設業	120	19	15.8%
卸売業	55	13	23.6%
小売業	55	4	7.3%
サービス業	120	18	15.0%
非製造業計	350	54	15.4%
合計	1,000	167	16.7%

表2.規模別回答状況

規模別	製造業			非製造業			全体		
	発送数	回答数	回収率	発送数	回答数	回収率	発送数	回答数	回収率
5～19人	377	58	15.4%	246	28	11.4%	623	86	13.8%
20～49人	170	38	22.4%	67	14	20.9%	237	52	21.9%
50～99人	55	12	21.8%	19	8	42.1%	74	20	27.0%
100～299人	34	5	14.7%	12	2	16.7%	46	7	15.2%
300人以上	14	0	0.0%	6	2	33.3%	20	2	10.0%
合計	650	113	17.4%	350	54	15.4%	1,000	167	16.7%

【調査結果の総括】

～新型コロナウイルス感染症の影響により、景気は大幅に悪化～

1～3月期の八尾市の業況判断D I¹は全産業で▲29 と、前回調査から 16 ポイントの悪化となり、D I 水準は6期連続で悪化した（2019年12月＝▲13→2020年3月＝▲29）。業種別にみると、製造業のD Iは▲26 となり、前回調査から8ポイント悪化した（12月＝▲18→3月＝▲26）。非製造業のD Iは▲35 となり、前回調査から38ポイント悪化した（12月＝3→3月＝▲35）。

D Iの推移からここ1年ほどの八尾の景気動向を振り返ると、2019年は米中貿易摩擦や中東情勢などによる海外経済の低迷が各関連業界へ派生、国内でも消費税率引き上げや暖冬の影響等の季節要因から徐々に低下基調で推移していた中、2020年もその影響は継続、さらに新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大し、感染拡大防止対策として外出自粛やイベント関連の中止・延期、訪日客の入国・行動制限等により経済活動が大きく制約され、景気に大きな影響を及ぼした。製造業、非製造業ともにその影響は甚大で、製造業ではその他の製造業以外でマイナス幅が拡大、その他の製造業はマイナス幅が緩和したものの依然マイナスの領域にあり、さらなる停滞感を強めている。非製造業でもD Iがすべての業種でマイナスとなり、上記自粛要請の影響が大きく反映している。

今後も予断を許さない状況が続き、景気動向についても引き続き低調な推移と推測される。

図1. 業種別天気図(景気水準)

	2019年4～6月期		2019年7～9月期		2019年10～12月期		今回 2020年1～3月期		天気図 前回比較
全産業		10		▲3		▲13		▲29	
製造業		7		▲14		▲18		▲26	
金属製品		▲3		▲23		▲15		▲27	
機械器具		15		▲14		▲9		▲45	
その他の製造業		7		▲8		▲24		▲12	
非製造業		14		20		3		▲35	
建設業		25		44		19		▲13	
卸売業		6		▲20		▲22		▲56	
小売業		±0		60		▲100		▲50	
サービス業		8		6		10		▲43	

※数値は業況判断D I。景況天気図で示した景況判断は、業況判断D I値によって判定。本設問は2012年4～6月期調査より開始しており、景況判断は暫定的に、D I値がプラス10以上であれば晴れ 、0～9は薄曇り 、▲10～▲11は曇り 、▲20～▲11は小雨 、▲21以下は雨 とした。
図表における前回調査との比較の矢印マークは、景況天気図に基づくものであり、 が好転、 が横ばい、 が悪化を示す。

¹ D Iは、各景況項目について、「良い、上昇、増加」などと答えた企業の割合から「悪い、下落、減少」などと答えた企業の割合を引いた数値。日銀短観や本調査における「業況判断D I」は「良い」から「悪い」を引いた「水準」調査であるのに対して、本調査における「業況判断D I」以外の項目（「生産額」、「出荷額」など）は前期・前年同期と比べての「増加」などから「減少」などを引いた「方向性」調査である。なお、本稿ではマイナスを「▲」と表している。

日銀短観²（2020年3月調査）における全国および近畿の業況判断D I（全産業・全規模）と比較してみる。まず、全国では前回調査より8ポイント、近畿では12ポイントの悪化となり、景気の業況判断D Iはマイナスに転じた。八尾市においては、全国、近畿に比して悪化幅は大きくなっており、特に非製造業においてはD I 値の落ち込みが大きく、全国、近畿の推移よりもその影響度合いは大きくなっている。新型コロナウイルス感染症防止対策の自粛対応継続による影響はさらに拡大すると見られ、D I 値の変動には引き続き注意が必要である（図2～4）。

図2. 全産業・全規模の業況判断DI推移

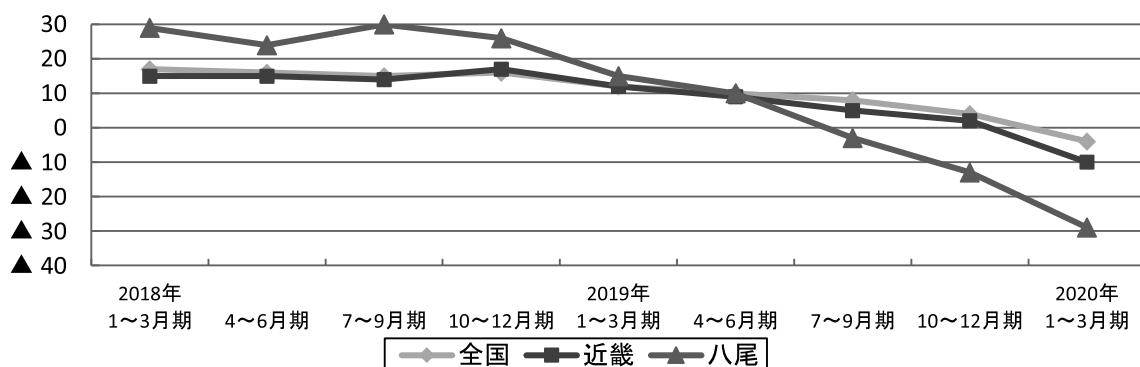


図3. 製造業・全規模の業況判断DI推移

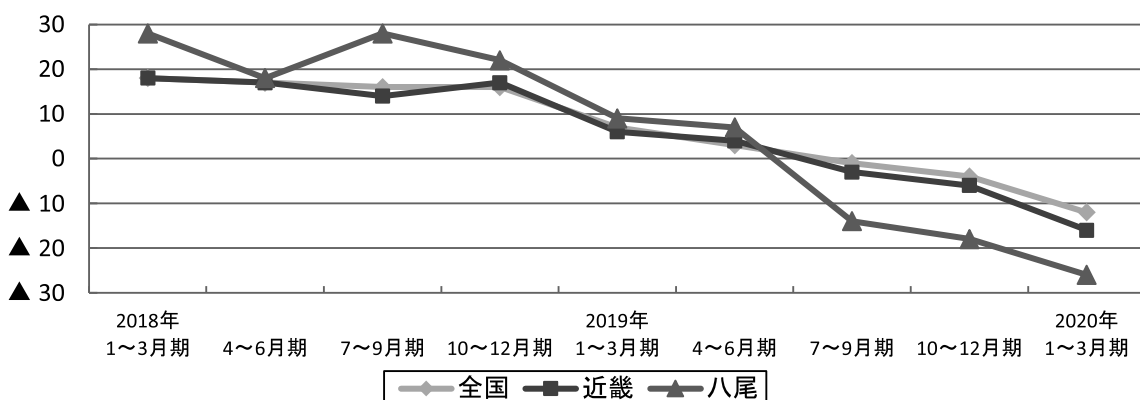
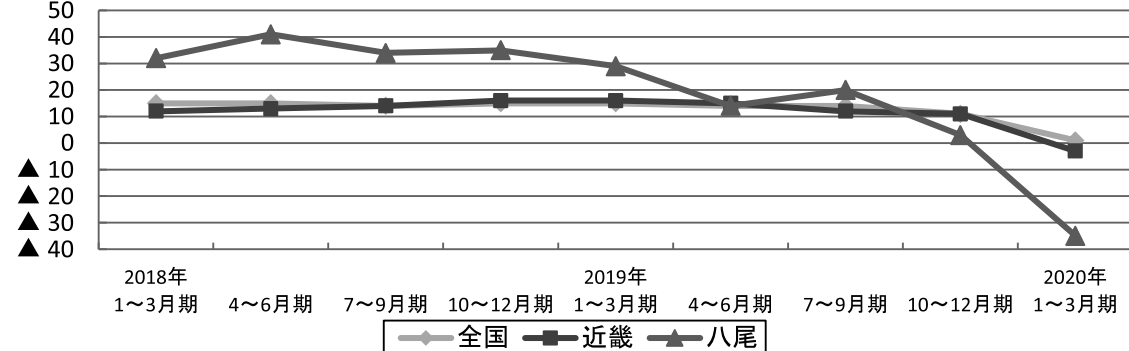


図4. 非製造業・全規模の業況判断DI推移



（資料）日本銀行大阪支店「全国企業短期経済観測調査-近畿地区-」

² 日銀短観は日本銀行「全国企業短期経済観測調査」の略。

景気の方角感を八尾市の各種前年同期比のD I³で確認すると(図5～6)、製造業の「生産額」、「製品販売価格」、「設備投資額」のすべてで悪化し、マイナスへ転じた。非製造業でも同様に「売上額」、「販売先数・客数」、「設備投資額」のすべてで悪化、特に「売上額」においては▲50超にまでD I値が悪化し、先行きの不安感が拭えない結果となった。

図5. 製造業の各種「前年同期比」DI推移

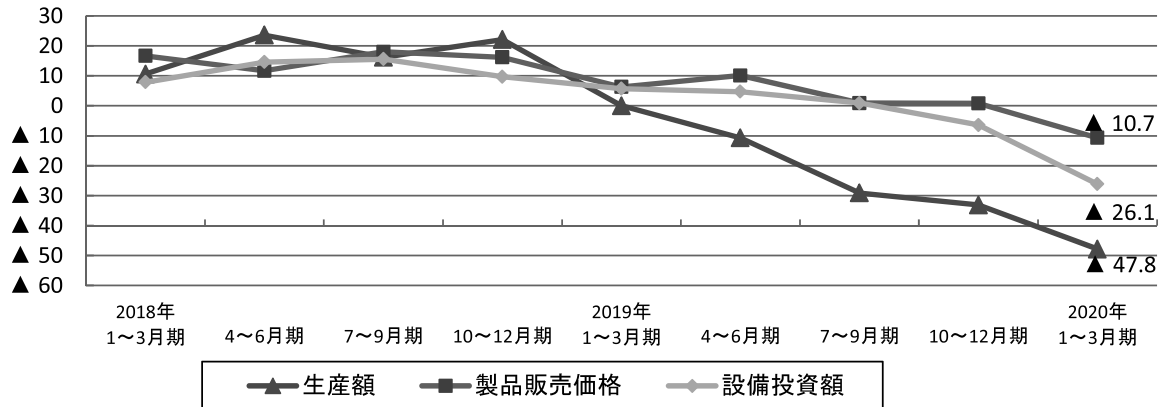
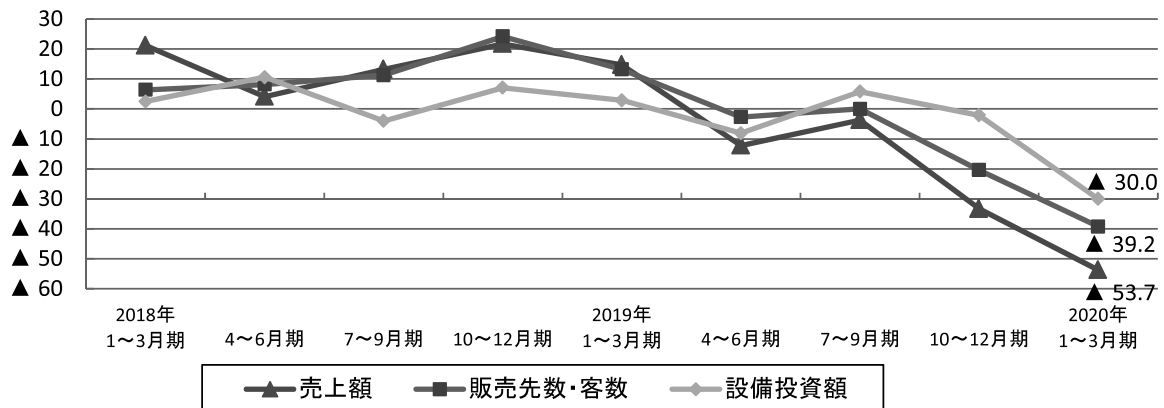


図6. 非製造業の各種「前年同期比」DI推移



³ 「前年同期比」D Iは、各景況項目について、前年同期と比較して「良い、増加」などと答えた企業の割合から「悪い、減少」などと答えた企業の割合を引いた数値。

1. 製造業の景気動向

景況天気図は

(前回)



⇒

(今回)

雨



【 生産額 】

製造業の2020年1～3月期における生産額D I（前期比、「増加」－「減少」）は▲38.9（▲はマイナスを表す、以下同様）とマイナス（減少超）で推移した（前々回▲19.8→前回▲23.5→今回▲38.9）。

表3. 生産額(前期比)

業種		当期生産額は前期に比べて					
		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加	横這	減少		
	金属製品	31	16.1	35.5	48.4	▲ 32.3	▲ 23.3
	機械器具	36	2.8	52.8	44.4	▲ 41.6	▲ 28.6
	その他の製造業	46	17.4	23.9	58.7	▲ 41.3	▲ 21.0
	製造業計	113	12.4	36.3	51.3	▲ 38.9	▲ 23.5

前年同期と比べた生産額D Iでも、▲47.8 とマイナス（減少超）が続いた（前々回▲29.1→前回▲33.1→今回▲47.8）。

表4. 生産額(前年同期比)

業種		当期生産額は前年同期に比べて					
		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加	横這	減少		
	金属製品	31	16.1	19.4	64.5	▲ 48.4	▲ 38.6
	機械器具	36	2.8	38.9	58.3	▲ 55.5	▲ 17.9
	その他の製造業	46	13.0	32.6	54.3	▲ 41.3	▲ 36.3
	製造業計	113	10.6	31.0	58.4	▲ 47.8	▲ 33.1

【 出荷額 】

1～3月期の出荷額D I（前期比、「増加」－「減少」）は▲44.2 と、マイナス（減少超）が続いた（前々回▲20.7→前回▲22.6→今回▲44.2）。業種別では機械器具のマイナス幅が大きく、▲50.0 となった。

表5. 出荷額

業種		当期出荷額は前期に比べて					
		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加	横這	減少		
	金属製品	31	16.1	25.8	58.1	▲ 42.0	▲ 25.6
	機械器具	36	2.8	44.4	52.8	▲ 50.0	▲ 28.5
	その他の製造業	46	17.4	23.9	58.7	▲ 41.3	▲ 17.6
	製造業計	113	12.4	31.0	56.6	▲ 44.2	▲ 22.6

【製品在庫】

1～3月期の製品在庫D I（前期比、「不足」－「過剰」）は▲17.8と、マイナス（過剰超）幅が拡大した（前々回▲3.8→前回▲5.5→今回▲17.8）。業種別内訳をみると、前回プラス（不足超）であった機械器具がマイナスに転じ、その値も▲29.4と他の業種よりも2倍以上となっている。

表6. 製品在庫

業種	当期製品在庫は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		不足	適正	過剰		
金属製品	29	10.3	65.5	24.1	▲ 13.8	▲ 9.5
機械器具	34	0.0	70.6	29.4	▲ 29.4	3.5
その他の製造業	44	9.1	70.5	20.5	▲ 11.4	▲ 7.1
製造業計	107	6.5	69.2	24.3	▲ 17.8	▲ 5.5

【原材料仕入価格】

1～3月期の原材料仕入価格D I（前期比、「値上」－「値下」）は6.2と、プラス（値上超）幅が縮小した（前々回30.6→前回28.6→今回6.2）。業種別では、金属製品でマイナス（値下超）に転じ、機械器具、その他の製造業ではプラス幅が縮小した。

表7. 原材料仕入価格

業種	当期原材料仕入価格は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		値上	横這	値下		
金属製品	31	9.7	77.4	12.9	▲ 3.2	25.0
機械器具	36	13.9	80.6	5.6	8.3	26.9
その他の製造業	45	13.3	84.4	2.2	11.1	32.1
製造業計	112	12.5	81.3	6.3	6.2	28.6

【製品販売価格】

1～3月期の製品販売価格D I（前期比、「値上」－「値下」）は▲5.4と、マイナス（値下超）に転じた（前々回0.0→前回0.0→今回▲5.4）。業種別内訳をみると、機械器具はマイナス幅は縮小したもの、その他の製造業がマイナスへ転じ、製造業全体としてマイナスでの推移となった。

表8. 製品販売価格(前期比)

業種	当期製品販売価格は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		値上	横這	値下		
金属製品	31	6.5	80.6	12.9	▲ 6.4	▲ 4.5
機械器具	35	2.9	88.6	8.6	▲ 5.7	▲ 7.1
その他の製造業	45	0.0	95.6	4.4	▲ 4.4	7.2
製造業計	111	2.7	89.2	8.1	▲ 5.4	0.0

前年同期と比較した製品販売価格D Iは▲10.7とマイナスに転じた（前々回 0.9→前回 0.8→今回 ▲10.7）。

表9. 製品販売価格(前年同期比)

業種	当期製品販売価格は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		値上	横這	値下		
金属製品	31	6.5	71.0	22.6	▲ 16.1	▲ 2.4
機械器具	36	5.6	75.0	19.4	▲ 13.8	3.6
その他の製造業	45	4.4	86.7	8.9	▲ 4.5	1.8
製造業計	112	5.4	78.6	16.1	▲ 10.7	0.8

【 採 算 状 況 】

1～3月期の採算状況D I（前期比、「好転」－「悪化」）は▲41.6とマイナス（悪化超）基調の動きが続いている（前々回▲22.7→前回▲28.6→今回▲41.6）。業種別の内訳をみると、すべての業種でマイナス幅が拡大した。

表10. 採算状況

業種	当期採算状況は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		好転	横這	悪化		
金属製品	31	12.9	45.2	41.9	▲ 29.0	▲ 22.7
機械器具	36	5.6	38.9	55.6	▲ 50.0	▲ 32.2
その他の製造業	46	4.3	47.8	47.8	▲ 43.5	▲ 31.6
製造業計	113	7.1	44.2	48.7	▲ 41.6	▲ 28.6

【 資 金 繰 り 】

1～3月期の資金繰りD I（前期比、「好転」－「悪化」）は▲25.7でマイナス（悪化超）基調で推移している（前々回▲16.4→前回▲22.7→今回▲25.7）。業種別の内訳をみると、金属製品でマイナス幅は縮小したが、機械器具とその他の製造業でマイナス幅が拡大した。

表11. 資金繰り

業種	当期資金繰りは前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		好転	横這	悪化		
金属製品	31	16.1	58.1	25.8	▲ 9.7	▲ 13.6
機械器具	36	5.6	61.1	33.3	▲ 27.7	▲ 22.2
その他の製造業	46	10.9	43.5	45.7	▲ 34.8	▲ 29.8
製造業計	113	10.6	53.1	36.3	▲ 25.7	▲ 22.7

【受注状況】

1～3月期の受注状況DI（前期比、「好転」－「悪化」）は▲55.4とマイナス（悪化超）幅が拡大した（前々回▲33.0→前回▲40.3→今回▲55.4）。業種別にみると、すべての業種でマイナス幅が拡大しており、特に機械器具では「好転」が0となっており対応の厳しさが窺える。

表12. 受注状況

業種	当期受注状況は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		好転	横這	悪化		
金属製品	30	13.3	13.3	73.3	▲ 60.0	▲ 50.0
機械器具	36	0.0	36.1	63.9	▲ 63.9	▲ 42.9
その他の製造業	46	17.4	19.6	63.0	▲ 45.6	▲ 31.6
製造業計	112	10.7	23.2	66.1	▲ 55.4	▲ 40.3

【設備投資額】

1～3月期の設備投資額DI（前年同期比、「増加」－「減少」）は▲26.1と、マイナス（減少超）幅が拡大した（前々回 0.9→前回▲6.4→今回▲26.1）。業種別で見ても、すべての業種でマイナス方向の動きとなり、機械器具が他の業種よりマイナス幅が大きくなっている。

表13.設備投資額

業種	当期設備投資額は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		増加	横這	減少		
金属製品	31	6.5	67.7	25.8	▲ 19.3	0.0
機械器具	35	8.6	48.6	42.9	▲ 34.3	▲ 7.4
その他の製造業	45	6.7	62.2	31.1	▲ 24.4	▲ 11.0
製造業計	111	7.2	59.5	33.3	▲ 26.1	▲ 6.4

【向こう3カ月の景況】

1～3月期における向こう3カ月の景況判断DI（「好転」－「悪化」）は▲78.8と、マイナス（悪化超）幅は拡大した（前々回▲37.3→前回▲62.0→今回▲78.8）。業種別の内訳をみると、全ての業種でマイナス（悪化超）幅が拡大、特に機械器具では「好転」が0となり、先行きの不安感が大きくなっている。

表14.向こう3カ月の景況

業種	向こう3カ月の景況					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		好転	横這	悪化		
金属製品	31	3.2	16.1	80.6	▲ 77.4	▲ 59.1
機械器具	36	0.0	8.3	91.7	▲ 91.7	▲ 67.8
その他の製造業	46	8.7	13.0	78.3	▲ 69.6	▲ 61.4
製造業計	113	4.4	12.4	83.2	▲ 78.8	▲ 62.0

2. 非製造業の景気動向

景況天気図は

(前回)



⇒

(今回)

雨



建設業

景況天気図は

(前回)



⇒

(今回)

小雨



1～3月期の状況を各種D I（前期比）でみると、資材仕入価格と労務費はプラス（値上超）幅が縮小、その他の指標は軒並みマイナス幅が拡大した。採算状況、受注状況のマイナス（悪化超）幅が拡大し、売上額もマイナス（減少超）に推移、工事引合件数も前回の▲4.5から▲42.1と大きくマイナス（減少超）方向へ推移するなどの影響を受けて、向こう3カ月の景況は▲78.9とマイナス（悪化超）幅が拡大、先行きの状況に対する懸念が強まっている。

前年同期比D Iをみると、こちらもすべての指標でマイナス幅が拡大。受注状況も前回プラスであったがマイナスへ転じ、設備投資額も±0からマイナスへ推移した。投資状況も慎重な対応になるものと推察される。

表15.建設業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期比	売上額	19	10.5	42.1	47.4	▲ 36.9	▲ 27.3
	資材仕入価格	19	36.8	63.2	0.0	36.8	45.4
	労務費	19	31.6	63.2	5.3	26.3	45.5
	工事引合件数	19	10.5	36.8	52.6	▲ 42.1	▲ 4.5
	受注単価	19	10.5	52.6	36.8	▲ 26.3	▲ 13.6
	採算状況	19	5.3	47.4	47.4	▲ 42.1	▲ 18.2
	資金繰り	19	5.3	63.2	31.6	▲ 26.3	▲ 13.7
	受注状況	19	5.3	42.1	52.6	▲ 47.3	▲ 19.0
	向こう3カ月の景況	19	0	21.1	78.9	▲ 78.9	▲ 22.8
前年同期比	売上額	19	10.5	26.3	63.2	▲ 52.7	▲ 22.7
	受注状況	18	5.6	50	44.4	▲ 38.8	5.0
	設備投資額	17	5.9	64.7	29.4	▲ 23.5	0.0

卸売業

景況天気図は

(前回)



⇒

(今回)

雨



1～3月期の状況を各種D I（前期比）でみると、売上額はマイナス（減少超）幅がわずかに拡大した。商品仕入価格は前回よりプラス（値上超）幅は縮小、商品販売価格は前回の±0からマイナスへ移行した。「横這」、「適正」との回答がまだ多い状況ではあるが、今後の動向によってはさらに悪化する可能性が見込まれる。売上額、採算状況、粗利益率においては、「横這」、「適正」よりも「悪化」の回答割合が多く、これらに起因して向こう3ヵ月の景況もマイナス（悪化超）幅は前回より縮小したものの、依然高止まりの状況で厳しい経営環境が窺える。

前年同期とのD Iの比較でみると売上額、販売先数・客数でマイナス幅が縮小したが、設備投資額が前回の±0からマイナス（減少超）へ推移している。

表16.卸売業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期比	売上額	13	15.4	15.4	69.2	▲ 53.8	▲ 50.0
	販売先数・客数	13	7.7	76.9	15.4	▲ 7.7	▲ 16.7
	客単価	13	0.0	76.9	23.1	▲ 23.1	▲ 25.0
	商品仕入価格	13	15.4	76.9	7.7	7.7	8.4
	商品在庫	13	0.0	76.9	23.1	▲ 23.1	▲ 33.4
	商品販売価格	13	7.7	76.9	15.4	▲ 7.7	0.0
	採算状況	13	7.7	30.8	61.5	▲ 53.8	▲ 41.7
	資金繰り	13	7.7	69.2	23.1	▲ 15.4	▲ 33.3
	粗利益率	13	7.7	30.8	61.5	▲ 53.8	▲ 33.3
	向こう3ヵ月の景況	13	0.0	23.1	76.9	▲ 76.9	▲ 91.7
前年比	売上額	13	15.4	15.4	69.2	▲ 53.8	▲ 66.7
	販売先数・客数	12	8.3	58.3	33.3	▲ 25.0	▲ 41.7
	設備投資額	12	8.3	50.0	41.7	▲ 33.4	0.0

小売業

景況天気図は

(前回)



⇒

(今回)

雨



1～3月期の状況を各種D I（前期比）でみると、売上額、客単価、商品仕入価格、商品販売価格、粗利益率、向こう3ヵ月の景況でマイナス（減少超、値下超、悪化超）幅が拡大した。客単価、商品仕入価格、商品在庫、採算状況、向こう3ヵ月の景況では「増加」などのプラス要因の回答が0となっている。

前年同期との比較でも、前回に引き続き売上額、販売先数・客数がマイナス（減少超）基調で推移、設備投資額は前回と変わらず±0で推移した。

表17.小売業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期比	売上額	4	25.0	25.0	50.0	▲ 25.0	0.0
	販売先数・客数	4	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0
	客単価	4	0.0	75.0	25.0	▲ 25.0	0.0
	商品仕入価格	4	0.0	100.0	0.0	0.0	50.0
	商品在庫	4	0.0	75.0	25.0	▲ 25.0	▲ 50.0
	商品販売価格	4	0.0	100.0	0.0	0.0	50.0
	採算状況	4	0.0	75.0	25.0	▲ 25.0	▲ 50.0
	資金繰り	4	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0
	粗利益率	4	0.0	100.0	0.0	0.0	50.0
	向こう3ヵ月の景況	4	0.0	0.0	100.0	▲ 100.0	▲ 50.0
前年同期比	売上額	4	25.0	0.0	75.0	▲ 50.0	▲ 50.0
	販売先数・客数	4	25.0	25.0	50.0	▲ 25.0	▲ 50.0
	設備投資額	4	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0

サービス業

景況天気図は

(前回)



⇒

(今回)

雨



1～3月期の状況を各種DI（前期比）でみると、全ての指標でマイナス幅が拡大した。採算状況、資金繰り、粗利益率、向こう3ヵ月の景況では「好転」などのプラス要因の回答はなく、特に向こう3ヵ月の景況においてはほとんどの事業者が「悪化」を選択しており、先行きに対する不安感の大きさを物語っている。

前年同期との対比でも、売上額、客数、設備投資額のすべてでマイナス（減少超）幅が拡大し、投資の動きもさらに停滞、鈍化していくものとみられる。

表18.サービス業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期比	売上額	18	5.6	33.3	61.1	▲ 55.5	▲ 6.6
	客数	17	5.9	41.2	52.9	▲ 47.0	▲ 7.2
	客単価	16	12.5	43.8	43.8	▲ 31.3	▲ 7.1
	採算状況	18	0.0	50.0	50.0	▲ 50.0	▲ 20.0
	資金繰り	17	0.0	41.2	58.8	▲ 58.8	▲ 26.6
	粗利益率	17	0.0	41.2	58.8	▲ 58.8	▲ 33.3
	向こう3ヵ月の景況	18	0.0	5.6	94.4	▲ 94.4	▲ 33.3
前年同期比	売上額	18	16.7	11.1	72.2	▲ 55.5	▲ 20.0
	客数	17	11.8	23.5	64.7	▲ 52.9	▲ 33.4
	設備投資額	17	11.8	35.3	52.9	▲ 41.1	▲ 6.7

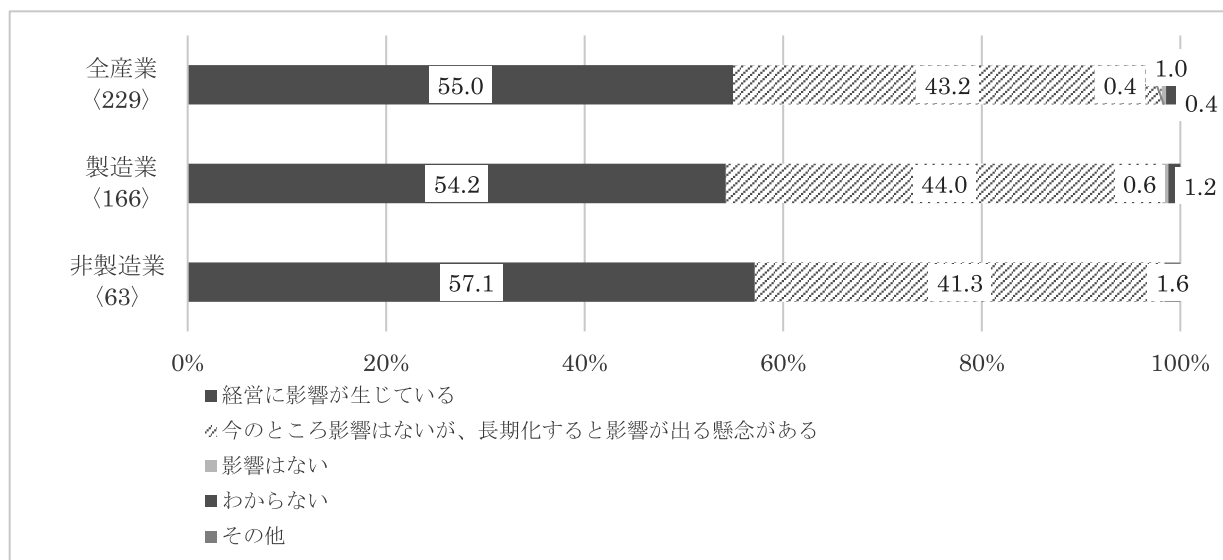
3. 新型コロナウイルス感染症による経営への影響について

(1) 新型コロナウイルス感染症による経営への影響

新型コロナウイルス感染症による経営への影響度合いを尋ねたところ、全体（調査対象事業所数 1,000 社、回答事業所数 229 社、製造業 166 社、非製造業 63 社）では、「経営に影響が生じている」事業所が 55.0%と過半数を占め、「今のところ影響はないが、長期化すると影響が出る懸念がある」事業所が 43.2%、「影響はない」と回答した事業所が 0.4%、「わからない」と回答した事業所が 1.0%、「その他」と回答した事業所が 0.4%となった。

業種別でみると、「経営に影響が生じている」事業所の割合は製造業が 54.2%に対し、非製造業では 57.1%となり、非製造業の方が経営に影響が生じている割合が高くなっている。（図 7）。

図 7. 新型コロナウイルス感染症による経営への影響



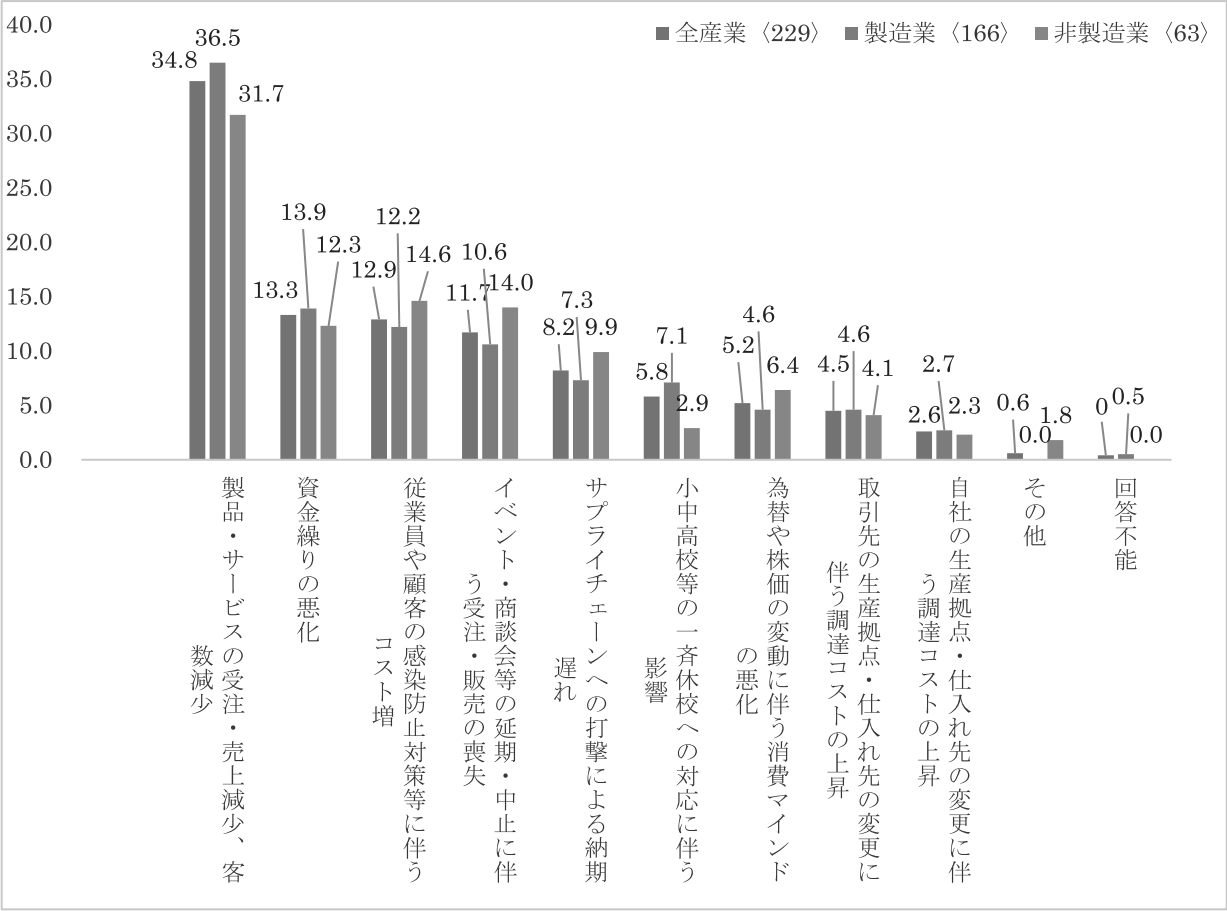
(注) 〈 〉内は回答事業所数。

(2) 具体的な影響

経営に影響が生じている」または「今のところ影響はないが、長期化すると影響が出る懸念がある」と回答した事業所に、その具体的な影響について複数回答可で尋ねたところ、全体では、「製品・サービスの受注・売上減少、客数減少」が 34.8%で最も多く、次いで、「資金繰りの悪化」が 13.3%、「従業員や顧客の感染防止対策等に伴うコスト増」が 12.9%となり、以下「イベント・商談会等の延期・中止に伴う受注・販売の喪失」が 11.7%と続いている。

業種別でみると、製造業、非製造業ともに全体での回答割合の順位に大きな変動はないが、非製造業では、「従業員や顧客の感染防止対策等に伴うコスト増」、「イベント・商談会等の延期・中止に伴う受注・販売の喪失」の割合が高くなっている。（図 8）。

図8. 具体的な影響(業種別)



(注) 〈 〉内は回答事業所数。

4. 新型コロナウイルス感染症の影響を含めた自由回答

各業界から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種	規模	コメント内容
製造業	B	社会全体の消費の冷えこみによる景気後退による受注減。
製造業	A	営業の自粛により訪問が出来ないので新規開拓等の営業活動が出来ない為、減少した売上をカバーできない。我慢しかないのが悔しい。
製造業	A	関西からの生産拠点の撤退に伴い、仕事の一部がなくなります。
製造業	B	通常通り。
製造業	B	今のところ業種的に直接的な影響は無いが、万が一従業員に感染者が出ると事業閉鎖に追い込まれる。
製造業	A	大手企業の業務の縮小停止等による受注減少。
製造業	B	軽度な体調不良でも自宅待機をさせる為、他従業員への負担が増す。
製造業	A	テレワークは現状のシステム・体制では導入できません。
製造業	D	客先がコロナウイルス対応で作業休止している為、経営に影響が生じている。
製造業	A	社員教育の停滞。
製造業	A	現状、マスク、エプロン、手袋、雨具、防護服、フェイスシールド、医療用具を大量生産する事業所向けの型を作っていますので、何とか感染を塞いで行くという使命感大。6月以降通常の型の受注の見込減少するのは目に見えているのが怖いです。
製造業	A	・ 鋳物屋さんが仕業が大幅に減った為、立ち行かなくなり会社を閉鎖する。この様な例が多発する恐れあり。 ・ カタカナ英語を使わないで。理解出来ない。
製造業	A	先が見えない状況なので、得体の知れない不安感が広がる中何々色々な事に前向きに取り組めない。
製造業	B	厚生労働省が書いている助成金のフォーマットが悪い。（助成9～10割という字は大きく書いてあるが、1人あたりの上限額の字が読めない程に小さ過ぎる！！）
製造業	B	先行きがかなり悪くなって来るので大変不安に思っている。
製造業	A	4月は昨対10%の売上、5月以降はゼロに近づきそうである。

業種	規模	コメント内容
建設業	B	工事のストップにより工程がずれる。
卸売業	C	社員教育の停滞、新規開拓営業の頓挫。
卸売業	B	休業要請に伴う、補償の法制化。
卸売業	A	経済活動停止による受注減。
卸売業	C	現在では解答出来ない。
小売業	B	中小の工場が月～金の中で休日増。
小売業	D	コロナによる閉鎖店舗の発生（S．C．等の指示）。
サービス業	A	今年の6月頃から収入減になると思われる。
サービス業	A	顧客製品の売上が落ち倉庫内商品が動いていない。
サービス業	A	営業自粛により売上がゼロになっている。
サービス業	C	大阪府の要請業種で休業中です。
サービス業	C	工場なのでテレワークが出来ない。従業員は全員出社してもらわないといけない。
サービス業	A	大手業界が早々に投資をおさえた為、仕事が極端に減ってしまった。

(注1) 規模：A＝5～19人、B＝20～49人、C＝50～99人、D＝100～299人、E＝300人以上

(注2) コメントはできるだけ原文のまま掲載しているが、一部にご意見の主旨を曲げることなく加筆・修正している場合がある。また、調査を実施した2020年4月時点でのものである。

 八尾商工会議所

〒581-0006 八尾市清水町1-1-6 TEL (072)922-1181
<http://www.yaocci.or.jp>

**八尾市 経済環境部産業政策課**

〒581-0006 八尾市清水町1-1-6 TEL (072)924-3845
八尾商工会議所会館内
<http://www.city.yao.osaka.jp>